

カツオ 中西部太平洋

Skipjack, *Katsuwonus pelamis*



生物学的特性

- 寿命：6 歳以上
- 成熟開始年齢：1.5 歳
- 産卵場：表面水温 24℃ 以上の海域
- 索餌場：表面水温 15℃ 以上の海域
- 食 性：動物プランクトン、魚類、甲殻類、頭足類
- 捕食者：まぐろ・かじき類、さめ類、海鳥類など

利用・用途

刺身・たたきによる生食、缶詰や節原料

漁業の特徴

2012 年の中西部太平洋におけるカツオの漁獲量は 164.8 万トンの歴史的 4 位の高漁獲であり、太平洋の漁獲量 192 万トンの 86% である。漁法別漁獲量（暫定値）は、まき網が 134 万トンで 81%、竿釣りが 15 万トンで約 9%、その他の漁業が 16 万トンで 10% である。まき網については日本、韓国、台湾及び米国の遠洋漁業国が近年の漁獲量の 5～6 割を占め、他はインドネシア、バプアニューギニア、フィリピンが多い。竿釣りは、2005 年頃まで日本が約 6 割を占めていたが、次第に減少し、2006 年以降は 1 位をインドネシアに譲り、日本は近年 4 割ほどになっている。国別漁獲量は、2009 年を除き 2010 年までは日本が 1 位であったが、2011 年には 24 万トンに減少し、インドネシアが 27 万トンで 1 位となった。近年、韓国、フィリピン、台湾、米国が 15～23 万トンほどで拮抗している。

漁業資源の動向

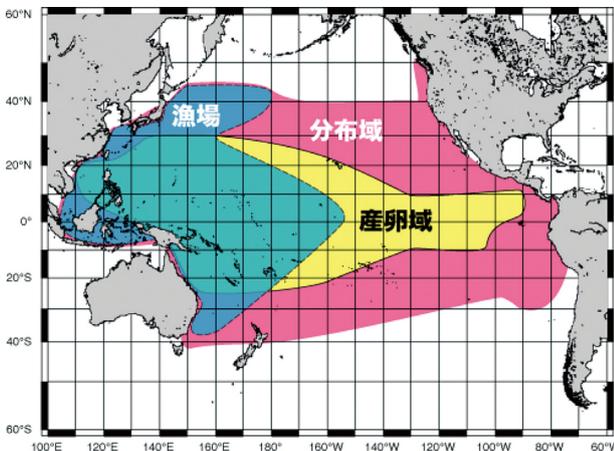
漁獲量は 1960 年前後には 10～17 万トン、1970 年には 20 万トンを超え、1970 年代後半には 30 万トンを超えた。この間の漁獲の伸びは主に竿釣りが中心であったが、漁場の拡大に伴う活餌保持の問題と燃油高騰等の経済的要因から、遠洋竿釣り漁船数は減少し、漁獲量の伸びは停滞した。1980 年代には各国のまき網船による熱帯水域漁場の開発も始まり漁獲量の急増期に入った。中西部太平洋における漁獲量は 1970 年代まで 40 万トン台であったが、1990 年代には 100 万トン前後に増大、さらに 2002 年には 120 万トン、2009 年には 180 万トンに達したが、2012 年にはカツオ漁獲量は 164.8 万トンに減少している。

管理・関係機関

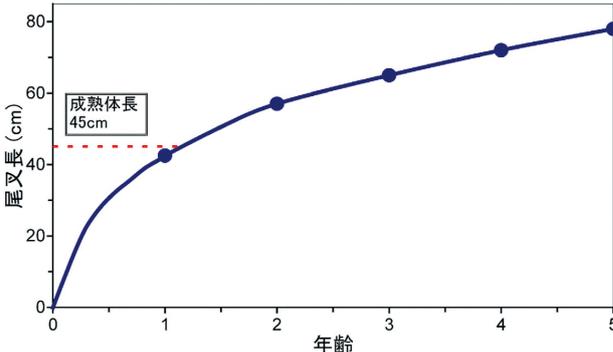
中西部太平洋まぐろ類委員会（WCPFC）

最近一年間の動き

2012 年の中西部太平洋におけるカツオの漁獲量は 164.8 万トンであり、太平洋の漁獲量 192 万トンの 86% である。漁法別漁獲量（暫定値）は、まき網が 134 万トンで 81%、竿釣りが 15 万トンで約 9%、その他の漁業が 16 万トンで 10% である。
 カツオの資源評価は 2011 年、統合モデルである Multifan-CL により実施された。その結果、中西部太平洋におけるカツオ資源は、漁獲圧は MSY レベルを下回っていることから過剰漁獲にはなっておらず、かつ現在の資源量は MSY レベルを上回っていることから乱獲状態にはなっていない、と結論づけられた。



太平洋におけるカツオ分布及び漁場分布



中西部太平洋のカツオの成長パターン

資源状態

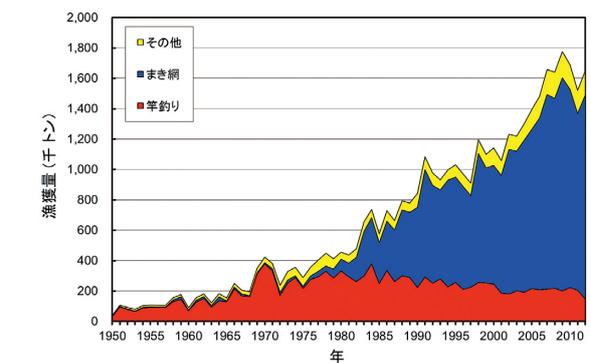
漁獲圧は MSY レベルを下回っており過剰漁獲にはなっておらず ($F_{cur}/F_{MSY}=0.37$)、現在の資源量は MSY レベルを上回っていることから乱獲状態にはなっていない ($B_{cur}/B_{MSY}=2.68$)。

管理方針

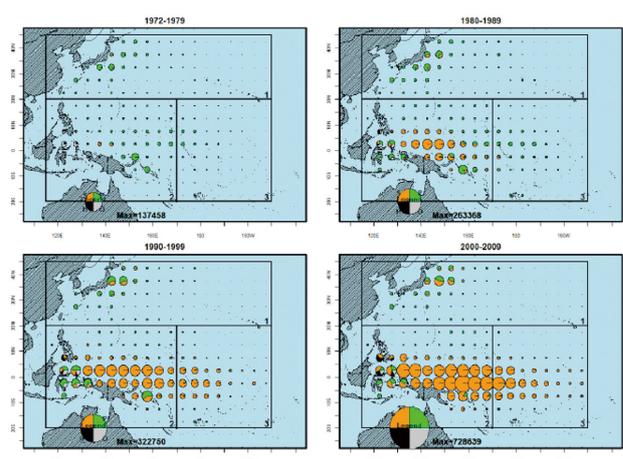
メバチ・キハダ・カツオの保存管理措置において、メバチ幼魚死亡率削減のために集魚装置 (FADs) 規制が導入されており、カツオ資源にも影響を与えていると考える。2013 年に合意された措置は以下のとおり。FADs を用いた操業の 3 ヶ月間禁止に加え、2017 年に、公海の FADs の使用を禁止し、それまで段階的に集魚装置の使用数の削減又は 2 ヶ月間の使用禁止期間延長。加えて、大型まき網漁船の過剰漁獲能力 (2012 年末を超えるもの) を削減する仕組みを先進国が来年年次会合までに作成することも 2013 年に合意した。

資源評価まとめ

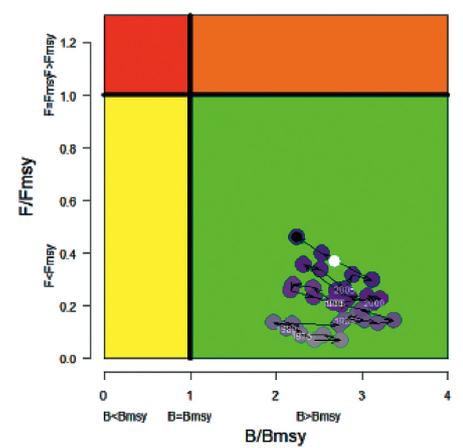
- 最新の資源評価は 2011 年の WCPFC 科学委員会で実施。
- 漁獲圧は MSY レベルを下回り、過剰漁獲ではない。
- 資源量は MSY レベルを上回り、乱獲状態ではない。
- 資源は中程度に漁獲され、漁獲死亡率は持続的である。しかし、赤道海域における高い漁獲が資源の分布縮減を発生させ、高緯度 (日本、豪州、NZ 及びハワイ) の漁業のカツオ利用度を減少させている懸念が生じている。
- 現在の漁獲状態が継続すれば、資源が MSY に向かって減少するにしがたい漁獲率は減少し、漁獲も減少する。近年の漁獲死亡率及び MSY 関連資源量指標の急激な変化もあり、漁獲努力量の増大はモニターされるべきである。WCPFC は、資源量の更なる減少に伴う漁獲率の減少を制限するためにカツオ漁業の開発の制限を検討すべき。
- 漁業は資源のサイズ、特に赤道西部海域において大きな影響を与えており、漁獲率に影響を与えると予測される。まき網のさらなる漁獲努力量の増大は、カツオの長期的漁獲の観点からは僅かな増加しかもたらさないだけでなく、メバチやキハダの漁獲死亡率の増大も引き起こす。中西部太平洋における総漁獲努力の管理においては、この点を認識すべきである。



中西部太平洋カツオの主要漁法別漁獲量の経年変化



解析に用いた海域区分と各海域における年代別漁法別累積カツオ漁獲量分布
 緑：竿釣り、橙：まき網、黒：hand line、灰：その他



MSY レベルを基準とした相対的漁獲係数 (F/F_{MSY}) と相対的資源量 (B/B_{MSY}) の経年変化。縦軸及び横軸の 1.0 は MSY レベルを示す。

カツオ (中西部太平洋) の資源の現況 (要約表)	
資源水準	高位
資源動向	減少
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	152.1 ~ 177.6 万トン 平均：165.5 万トン (2008 ~ 2012 年)
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	22.9 ~ 30.9 万トン 平均：26.8 万トン (2008 ~ 2012 年)